

4荒木316

今季初

中日一阪神 1回裏1死、荒木が二塁内野安打で一塁にヘッドスライディング(金田好弘撮影) ③3回裏2死、荒木が左前打を放つ(祿原敏徳撮影)



6回裏犠死、荒木が左前打を放つ(谷田好弘撮影)

ヘッドも2回 39歳チーム鼓舞



荒木 2000安打と



記録へ量産態勢
 歩幅が合わなかったわけでも、足がもつれたわけでもない。39歳の秋意が、追い込まれていたチームに火を付けた。荒木だ。初回1死、高く飛んだ二塁へのゴロを、ヘッドスライディングで内野安打に。これを足踏かり

に平田の犠打で生還し、先制点をもとめた。第2打席でも左前打を放つと、見せ場は6回だ。左前打で出塁すると、続く大島の右前打で一塁に二塁へ。この日2度目のヘッドスライディングは大きくへびの返るほどの勢い。「ひびいても3、4、5番が打ちやすい状況を作ろうと意識していた」との言葉通り、今度は平田の併殺打の間に同点となるホームを踏んだ。

ケガのリスクのあっただけに、今季初めて見せた16日の試合後は「足がもつれない限りやります」と話していた。それがこの試合では2度も、「気持ちもあんなにかたくなかった」と口をゆがめた。3連敗中のチーム状況を打開の大捕球を替え、相手先発が左腕の投手では試合終りのスタメン起用など、数ある要素しかない試合だった。

今季初の続行打賞は、通算1550回目。藤田平(阪神)と並んでセリーグ歴代10位の記録となるなど、固め打ちには定評がある。通算20000安打までにはあと27。大記録へ、いよいよ量産態勢に入った。(富岡厚志)